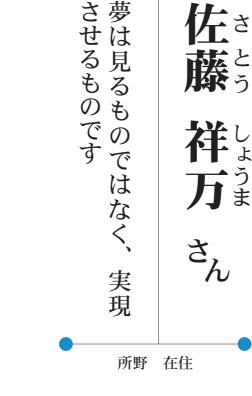




サ

ク



額ってゝぇ⁻。 顔ってゝぇ⁻。

願っています。

h

する」と書いたという佐藤さ

した。

メリカに遠征するなど、とて本選抜チームの一員としてア

左さ



生として『みんなを引っ張っう感じでしたが、今年は3年に連れていってもらったといだったので、先輩方に甲子園 ていかなければ』とい を振り返り、 h の全国大会に出場した佐藤さ を紹介します。 芸術大学附属高等学校で投手 슻。 た夏の全国高校野球選手 レッシャ として活躍した佐藤祥万さん 昨年、 **より返り、「昨年は2年生** 最上級生で迎えた今大会 栃木県代表となった文星 最後にはチー 今年と2年連続で夏 -がありました。 ム全員が ・ うプ 権 わ で 大れ ジ とは裏腹に、すぐ熱 と話してくれました。また、 まで進まり(なく努力 思えないほど高い意識を持ち、 で聞くと、「彼は小学生とは た」とも話してくれました。落ち着くよう心がけていまし 努力を今でも続けてい 目標に向かって流されること 常心』と書いて、 そうです。 くなり冷静さを失ってしまう まで進めたのだと思います」 して甲子園で2勝し、つになれました。その)聞くと、「彼は小学生とは所野小学校時代の監督に話 していました。その 「帽子のつばに『平 それを見て その結果と るから、 3 回戦 めると、「夢は見るもの生へのメッセージを求球場を夢見る小・中学 す。 ではなく、 す と、 佐藤さんにとってこの夏は、 習しかないと思います」と照 2年連続で全国大会に いう佐藤さん。 よく寝ていました」 く練習し、 たようでした。 を当時から確信して 行けたのだと思 「小さいころから、 お母さんによると、 そのためには、やはり練 教え子 よく食べ、 実現させるもので っの活躍 甲子 41 と 亰 よ ま なって、親に家をプ・ビ・くなったらプロ野球の選手に も忙しい ものとなり ŧ

佐藤さんの甲子園球場での力投。 (写真提供:下野新聞社)